

万葉図書・情報室だより54号

正倉院文書の探し方

コロナウイルス感染症の流行に伴い、思うように外出ができないため、ご不便を感じていらっしゃるかもしれません。本号では、ご自宅でもできるインターネットを活用した古代史料の探し方をご紹介します。

ご存じの方も多いと思いますが、正倉院には奈良時代の東大寺写経所が遺した「正倉院文書（正倉院古文書）」と呼ばれる古文書群が所蔵されています。所蔵機関の宮内庁正倉院事務所や、東京大学史料編纂所によって調査・整理が続けられており、その成果に基づいて影印本（写真集）や文書目録が刊行されていますが、いずれも未完結のため、全ての文書を自由に見ることはこれまで困難でした。ところが今年二月に宮内庁正倉院事務所の管理するウェブサイトが更新され、（<https://shosoin.kunaicho.go.jp/>）正倉院文書全点のマイクロフィルム写真が閲覧可能になりました。これと

東京大学史料編纂所が公開している正倉院文書マルチ支援データベース（<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/>）を併用すると、見たい文書の写真をすぐに見ることができます。

例えば、「岡本禅院」という古代寺院についての文書を探したいとしましょう。東大史料編纂所のホームページから「データベース検索」「正倉院文書マルチ支援データベース」を開き、「岡本禅院」と入力して検索し、検索結果から「詳細」を表示します。いろいろな情報が出ていますが、大事なものは【断簡名】【表裏】【撮影紙番】の三つです。今回の例だと、【断簡名】は「続々修40ノ2」、【表裏】は「裏」、【撮影紙番】は「20」になっています。「続々修40ノ2」は正倉院文書の巻名を意味しており、「続々修 第40巻 第2巻」にこの文書が収められていることがわかります。この巻の「裏」の紙番「20」という箇所は、目的の文書があるはずで

次に、正倉院事務所のホームページから「正倉院宝物検索」に進み、「文

書検索」を選択して「続々修」にチェックを入れて検索します（キーワードは空白のままです）。すると、続々修 第1巻 第1巻から順番に写真が表示されますので、ページを進めて第40巻 第2巻を選択すると、この巻の拡大写真が出ます。写真は前半が表、ちょうど真ん中にある「第40巻 第2巻 裏書」と書かれたコマを境に後半が裏です。また、写真の下部に小さな紙片が写っており、番号が書かれています。これが【撮影紙番】です。表は1から順に数字が増えていき、逆に裏は数字が減っていきますので、この例では写真の末尾、つまり裏の1から右方向へ遡っていくとよいでしょう。そうして「20」の紙片の場所を探し当てることができれば、目的の文書の写真にたどり着きます。

なお、文書の積文を写真と見比べた際は、「正倉院文書マルチ支援データベース」の詳細検索結果の下部にある「断簡積文」で表示できます。

このように二つのデータベースを駆使すると、正倉院文書を自由に探して見ることが出来ます。まことに便利な時代になったものです。

（主任研究員 竹内 亮）

○新着図書案内○

☆正倉院紀要 1～42号

（宮内庁正倉院事務所）

☆正倉院文書研究 16

（正倉院文書研究会
／吉川弘文館）

☆新しい古代史へ2

文字文化のひろがり

東国・甲斐からよむ

（平川南／吉川弘文館）

☆コレクション日本歌人選 069

佐佐木信綱

（佐佐木頼綱／笠間書院）

☆万葉集であるく奈良

（上野誠・蜂飼耳・馬場基／新潮社）

利用案内

開館時間 午前10時～午後五時半

休館日 1月曜日（祝日の場合は翌平日）

年末年始・展示替日

図書室のご利用は無料です。

閲覧でのご利用になります。

コピーサービス 白 黒 10円

カラー 一枚 50円

奈良県立万葉文化館万葉図書・情報室

奈良県高市郡明日香村飛鳥一〇

0744-54-1850（代）